

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク大和東保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒242-0017 大和市大和東2-7-11
設立年月日	平成26年10月1日
評価実施期間	平成27年7月 ～28年1月
公表年月	平成28年 3月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の立地・特徴】 ・立地および施設の概要 アスク大和東保育園は相鉄線、小田急線大和駅から徒歩6分の住宅地にあります。園舎は鉄筋2階建てです。近隣には大和スポーツセンター、大和東公園、大和東児童公園など大小様々な公園があり、日常的に散歩・外遊びに利用し、季節感を楽しんでいます。 平成26年10月1日開園で、0～5歳児定員60名で現在51名が在籍しています。地域子育て支援サービスとしての一時保育を行っています。 ・特徴 園目標に「健康で明るく元気な子」「素直な気持ちを表現し自ら考え意欲的に活動できる子」「思いやりがあり感謝する心を持つ子」を掲げ、子どもの発達に合わせ、学ぶ楽しさや体を動かす楽しさを育むため、専門講師による体操・リトミック・英語プログラムやクッキング保育などを定期的に行っています。 【特に優れていると思われる点】 1. 体を動かす遊びの工夫 園庭や散歩の戸外活動、公園ではかけっこや鬼ごっこなどで、体を思い切り動かす遊びをほぼ毎日取り入れています。園内では、ゆとりのある空間や使用していない保育室の利用で、十分体を使って遊ぶことができています。乳児がハイハイをしたり、自由に動いて遊ぶときには、生活しているスペースとは別に、広い空間を使うなどしています。専門講師によるリトミックや体操のプログラム以外に、各クラスでも、皆で楽しみながら、フリスビーの飛ばしっこや、マットを丸めてトンネルにしてくぐり抜けたり、パラバルーン（集団で使い協調性や社会性を養う円形の薄い布製の遊具）を使うなど全身を使った遊びを日常的に行っています。利用者家族アンケートでも、「クラスの活動や遊びについて」「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについて」は「満足」「どちらかと言えば満足」の合計がそれぞれ94%、90%と高い評価となっています。 2. 職員の手作りおもちゃの工夫 新設園のため、各年齢に応じた絵本、おもちゃ、教材類が豊富とは言えない中、職員の手作り品で遊びが広がるよう、工夫しています。段ボールを利用した仕切りや、牛乳パックで机や椅子、小さい棚などを作り、コーナー遊びの場を設定しています。牛乳パックとゴム使用の動く舟や、ガムテープの芯を利用した転がるおもちゃ、ミルクの空き缶に布をはり打楽器に見立てたり、ペットボトルを利用したおもちゃなどを工夫しています。洗濯バサミをボール紙に挟んで、ライオンの顔に見立てることもしています。大和	

市開催の「やまと子育て応援フェスタ」でも、職員が手作りおもちゃの紹介をして、参加した子どもと遊び喜ばれていました。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 送迎時の保護者との情報交換の工夫

一日の保育時間の子どもの様子や活動の内容などは、ホワイトボード、連絡ノート、クラスノート、写真掲示などで知らせています。職員間では、朝、保護者から聞き取ったこと、日中の様子、お迎え時に伝えることを一人一人の記入欄のある「クラスノート」で共有して誰が対応しても伝達にもれがないようにしていますが、子どものその日のエピソードや、活動にどう取り組んでいたかなどを伝えるには十分とは言えません。

利用者家族アンケートの「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について」は、否定的な回答が28%ありました。職員間での情報の共有の方法の工夫とともに、送迎時の保護者との情報交換の充実が期待されます。

2. 子育て支援へのさらなる努力

子育て支援として、地域住民にむけての離乳食講座を開催しています。「子育て交流会」や「育児相談」を実施していますが、参加者がいない状況です。

今後、さらに「子育て交流会」を工夫、充実することや、月に一度の「育児相談」を週に一度にするなどし、子育て支援ニーズの把握や保育園の機能を地域に還元する機会が増えることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重	・設置法人統一の運営理念は「安心・安全を第一に」「いつまでも思い出に残る保育を」「ニーズに合った保育サービスを」「職員が楽しく働けること」、保育の基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」とし、園目標は「健康で明るく元気な子」「素直な気持ちを表現し自ら考え、意欲的に活動できる子」「思いやりがあり、感謝する心を持つ子」として、子どもを尊重したものとなっています。 ・保育園業務マニュアルに子どもとの話し方や子どもの接し方の記載があり、子どもの呼び方を含む言葉遣いや子どもの人権を尊重することなどを、職員会議で確認しています。 ・職員は入社時に守秘義務の意義や目的について説明を受け、誓約書を提出しています。また個人情報取り扱いマニュアルを、年度初めに職員会議で確認しています。 ・保護者に対しては入園時に、重要事項説明書で個人情報の取り扱いや、保育所児童保育要録の小学校への提出について説明しています。ホームページへの子どもの写真掲載については承諾書を提出してもらっています。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・保育課程は、保育理念に基づき、子どもの最善の利益を第一義に作成しています。保育課程に基づき、年齢ごとにクラス担当職員が話し合って指導計画を作成しています。指導計画の評価、見直しは職員間で話し合うほかに、クラス懇談会、個人面談、連絡ノート、送迎時での会話などで保護者の意向も確認し、改訂に反映させています。 ・保育室は年齢、発達に応じ、つかまり立ちの時期には、低い棚などを用意しています。衝立、机、敷物を利用して、小集団で遊べるようにしています。また食事の場、午睡の場、着替えの場を分けています。

	・毎月、0～2歳児の個別指導計画を作成しています。幼児でも特別な課題がある場合に、個別指導計画を作成しています。個別の目標や計画はクラス担任で話し合い、毎月見直すほかに、大和市の発達支援担当の巡回相談後のケース会議や、月に2回の職員会議で子どもの発達状況や様子を話し合って、柔軟に計画を見直しています。 ・子どもがそれぞれの興味や関心を持って遊べるように、年齢・発達に応じて環境を整え、子どもが取り出しやすい場所に絵本や玩具を用意しています。職員が一緒に遊びに入り、子どもの様子を見ながら、言葉かけをしたり、子どもの発想を集団遊びに繋げています。また遊びの中で、自然に社会性を身に付けられるよう、ルールを説明したり、友だち同士の関わりに援助をしています。 ・食事は、旬のものをできるだけ使用し季節の食べ物を子どもたちに伝え、興味を持てるように心がけています。あらかじめ子どもの喫食状況を把握して盛りつけの量を調節しています。苦手なものがあっても無理強いせず「一口だけでも食べてみようね」と声かけし完食できる喜びを味わえるようにしています。乳児では食べこぼしをすることが多くても自分で食べたいという意思を尊重して見守りつつ援助しています。 ・眠れない子どもは身体を休めることを伝え、少し横になりどうしても眠れないときは他の場所で静かに遊べるように対応しています。 ・それぞれの子どもの排泄のリズムを尊重し、無理強いしたり我慢させたりしないよう心がけています。またトイレトレーニングは家庭と連携を取りながら、無理のないように進めています。 ・地域の施設利用や交流については、近隣の大和スポーツセンター、近隣の公園などに日常的に遊びに行っています。消防署を訪問して職員と交流したり、はしご車をみせてもらったりしています。散歩に出かける際、顔見知りになった近隣の商店の人たちと挨拶を交わしています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・ならし保育については、入園前説明会で保護者に説明しています。約一週間を予定し、保護者の都合にも配慮しながら、保育園で過ごす時間を徐々にのばしています。 ・入園時に提出される大和市所定の「児童票」、面談時の「面談シート」「健康調査票」を個人別にファイルしています。入園後の身長・体重の記録、発達の記録、健診結果は「健康記録票」に記載し、ファイルに綴じ込んでいます。事務室の施錠できる書棚に保管し、全職員が必要時に確認できるようになっています。 ・食物アレルギー、発達の遅れなど特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。配慮が必要なケースについては、職員会議、大和市の発達支援担当者巡回時のケース会議で報告、検討され、記録を残しています。 ・虐待防止マニュアルがあります。設置法人の研修を受講し、定義が全職員に周知されています。虐待が明白になった場合は、設置法人、大和市こども部はいく課、神奈川県中央児童相談所に通告、相談する体制になっています。子どもの様子や保護者の様子に気を配り、こまめに声かけし、話しやすい雰囲気を作り、虐待予防に

	努めています。 ・苦情受け付けの仕組みは「入園のご案内」（重要事項説明書）に第三者委員氏名、連絡先や、設置法人苦情相談窓口を記載し、入園説明会で保護者に説明しています。また大和市こども部ほいく課と連携して対応する体制になっています。 ・健康管理、衛生管理、安全管理に関する各マニュアルを整備し、マニュアルに基づいた対応や訓練、内部研修を行っています。
4.地域との交流・連携	・一時保育を実施しており、40人程度登録し、常時利用者が5、6人います。週に1回午前中に園庭開放を行っています。月に1度、「子育て交流会」を企画しています。また地域住民向けに離乳食講座を開催しています。 ・園長が大和市園長会議に年4回出席しています。年1回開催される「やまと子育て応援フェスタ」の打ち合わせ会議にも4回出席し、情報交換を行っています。 ・近隣の大和スポーツセンター、公園には日常的に散歩で訪れています。消防署を訪問し、職員と交流したりはしご車をみせてもらったりしています。 ・利用希望者への問い合わせについては随時対応し、見学は子どもと同じ年齢の保育を見てもらえるように提案し、電話で日時を相談の上行っています。 ・開設一年目でもあり、地域の子育てニーズ把握や育児相談の機会が増えることが期待されます。また園の体制が整い次第、ボランティアや実習生の受け入れが期待されます。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・保育園の情報はパンフレットやホームページで提供しています。ホームページは常に新しい情報を掲載しています。園のパンフレットを系列園や子育て支援センターなどに置いています。また社会福祉協議会が作成した冊子「やまと子育て情報 ころんひろば」に園の情報を載せています。 ・「保育園業務マニュアル」「就業規則」に職員の守るべき倫理、服務規程を明文化して全職員に周知しています。また設置法人が配付している、倫理、規範が書かれた「CREDO」カード（設置法人グループが作成した、子どもたちの笑顔のためにと題した職員の倫理・規範を記したカード）を全員所持しており、読み合わせをして周知しています。 ・設置法人のホームページ上に決算書、運営状況について公開されています。 ・理念、基本方針、園目標は玄関ホールに掲示しています。年度初めの職員会議で理念や基本方針に基づいた保育についての話をしています。 ・事業運営に影響のある情報を設置法人で収集、分析をしています。園長は設置法人の園長会議、大和市の行政機関から情報を収集し職員会議で、報告や検討を行っています。平成26～31年度の中・長期計画があります。
6.職員の資質向上の促進	・人材育成については、設置法人で経験年数に応じた階層別研修を用意しています。年に2回実施の「自己査定」では「自己査定シート」に新人・中堅・主任・園長ご

とに、経験、能力、習熟度に応じた努力目標が明示されています。職員は毎年、自己目標をたてています。「自己査定」をするとともに、半年に一度、園長が達成度の評価や助言をし、次期に反映させています。

- ・設置法人が年間研修計画を作成し、職員は「個人別年間研修計画」を立てています。内部研修として嘔吐処理、AED使用法などをテーマに行い、非常勤職員も参加しています。

- ・年間指導計画、月案、週案に、それぞれ評価・反省の記入欄があり、定型化された書式となっています。計画、ねらいに対しての評価・反省が行われています。子どもの育ちや意欲、活動への取り組みを重視して、振り返りを行うようにしています。

- ・年2回実施の「自己査定」に階層ごとの役割が期待水準として明文化されています。それぞれの職務、クラス運営については現場の職員に権限を委譲し、最終責任は園長が負うことになっています。

施設名:大和東保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I－1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成 	・設置法人統一の運営理念は「安心・安全を第一に」「いつまでも思い出に残る保育を」「ニーズに合った保育サービスを」「職員が楽しく働けること」、保育の基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」とし、園目標は「健康で明るく元気な子」「素直な気持ちを表現し自ら考え、意欲的に活動できる子」「思いやりがあり、感謝する心を持つ子」として、子どもを尊重したものとなっています。 ・運営理念、園目標を玄関に掲示してあります。職員は入社時に、設置法人の研修で基本方針などを学んでいます。園では、年度初めの職員会議や、日常業務打ち合わせ時などで全職員が確認しあっています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとにクラス担当職員が話し合って指導計画を作成しています。・子どもの様子やクラスの状態をみながら、自由遊びに何をしたいかや散歩の行先など子どもの意見も取り入れ、自主性や主体性が育まれるように計画は柔軟性を持たせています。変更時は、職員の連絡ノート、職員会議で確認しています。 ・開設一年目でもあり、保育課程に地域の実態・環境などを把握した内容を反映するには至っていません。 <コメント・提言> ・把握した地域の実態や保護者の就労状況などを保育課程に反映させることが期待されます。また全職員による確認、見直しが期待されます。
I－2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施 	・保護者と入園前に園長、クラス担当職員が親子一緒に面談をし、保護者との関わり方や子どもの様子を見て、「入園前面談シート」に記録しています。必要に応じ栄養士も同席しています。前もって保護者が記入済みの大和市所定「児童票」と、面談時の「入園前面談シート」をもとに生育歴や健康状態、家庭状況を把握しています。 ・ならし保育については、入園前説明会で保護者に説明しています。約一週間を予定し、保護者の都合にも配慮しながら、保育園で過ごす時間を徐々にのばしています。 ・0～2歳児は個別の「保育連絡ノート」で毎日の子どもの様子を伝えていきます。0歳児は時系列で、睡眠・排泄・食事の記述がされています。 ・年齢ごとの指導計画を作成しています。年間指導計画は4期にわけて期ごとに、月間指導計画は1ヶ月ごとにクラス担任間で話し合い、作成と見直しを行っています。 ・指導計画の評価、改訂については、担任間で話し合った後、職員会議で説明し、確認し合っています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・清掃マニュアルに沿って、清掃を行い、チェック表を活用し清潔に保っています。各保育室に24時間換気システム、空気清浄機、加湿器があります。適宜、窓を開放し空気の入替えをしています。0歳児クラスには床暖房があります。
- ・各保育室は独立しており、音楽や保育者の声が騒音になるようなことはありません。
- ・沐浴設備があります。1階、2階、園庭に温水シャワー設備があり、汗をかいた後や、プール遊びの後に使用しています。使用後に清掃するほか、毎日「衛生マニュアル」に沿って、管理・清掃しています。
- ・保育室内で、食事の場、午睡の場、着替えの場を分けています。年齢・発達に応じてベビーベッド、ラックなど利用したり、つかまり立ちの時期には、低い棚などを用意しています。また衝立、机、敷物を利用して、小集団で遊べるようにしています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・毎月、0～2歳児の個別指導計画を作成しています。幼児でも障がいや見守りが必要なケースなど、特別な課題がある場合に、個別計画を作成しています。
- ・個別の目標や計画はクラス担任で話し合い、毎月見直すほかに、大和市の発達支援巡回相談後のケース会議や、月に2回の職員会議で子どもの発達状況や様子を話し合っており、柔軟に計画を見直しています。
- ・入園時に提出される大和市所定「児童票」、面談時の「面談シート」「健康調査票」を個人別のファイルにしています。入園後の身長・体重測定・健診結果記録および発達の様子を記録文章にまとめ、ファイルに綴じ込んでいます。子どもの個別ファイルは、事務室の施錠できる書棚に保管しており、職員は必要時いつでも確認できます。
- ・平成26年度開園のため、今年度から保育所児童保育要録を大和市に提出することになっています。園での進級時には、年度末に児童票をもとに、クラス担任と次年度担任間で引き継ぎをするほか、職員会議でも全園児について、把握するようにしています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・配慮が必要なケースについては、職員会議、大和市の発達支援担当者巡回時のケース会議で報告、検討され、記録を残しています。発達障害についてや、気になる子への関わり方などの研修を受講し、研修結果を職員会議で報告し、資料をファイルにして、誰でも見られるようにしています。

・障がい児受け入れの場合には、障がいの特性を考慮した個別指導計画を作っています。大和市すくすく子育て課の発達支援巡回相談で助言や情報を得ています。また保護者の意向や思いに配慮しながら連携を取っています。

・虐待防止マニュアルがあります。設置法人の研修を受講し、定義が全職員に周知されています。虐待が明白になった場合は設置法人、大和市はいく課、神奈川県中央児童相談所に通告、相談する体制になっています。疑わしい場合や見守りが必要な場合には、職員会議や連絡ノートで全職員に報告し、子どもの全身状態や食事の様子、保護者の様子を毎日観察し、記録しています。大和市はいく課と連携を取っています。

・食物アレルギーについては、かかりつけ医の診断後の「生活管理指導表」に基づいて対応しています。保護者と栄養士が定期的に面談し、確認しながら除去食を提供しています。事務室内に食物アレルギーのある子どもの一覧表を貼り、いつでも確認出来るようにしています。さらに名前入りトレイ、各食器に名前を書いたラップを使用し、提供時・配膳時に複数職員が確認をしています。食事は、個人用机を皆と離れた場所に用意し、職員が付き添い、提供時間も少しずらしながら誤食を防いでいます。

・諸外国の食生活、習慣の違いには個別に対応し、職員は国を意識せず、保育にあたっています。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



・要望・苦情の受け付けは園長が担当しています。第三者委員の連絡先を玄関に掲示してあります。「入園のご案内」（重要事項説明書）に氏名、連絡先を記載し、入園説明会で保護者に説明しています。

・事務所前に意見箱を設置し、各行事後アンケート、個人面談、クラス懇談会、送迎時の会話など意見・要望を聞いたり、意思を汲み取る機会があります。

・保育園業務マニュアルに「クレーム対応」があり、職員に周知されています。日常よせられる意見については、迅速に全職員に周知し、対策を講じています。要望、苦情は「クレーム受理票」に記録し、解決に活かすようにしています。

・権利擁護機関などの苦情解決窓口の紹介はとくにしています。

<コメント・提言>

・大和市こども部の相談窓口、権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口について、案内やポスター掲示などでの紹介が期待されます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－１ 保育内容[遊び] 	・ 幼児クラスには子どもたちが自由に遊び整理しやすい場所におもちゃや絵本棚を設置しています。クレヨンや自由画帳などは一人一人専用工具箱に入れてあり、いつでも取り出せるようになっていきます。乳児クラスは職員がそのつどいくつかのおもちゃを取り出して選んで遊べるようにしています。 ・ 職員が工夫して作成した布や廃材を利用した手作りおもちゃも多数用意しています。 ・ 保育室にマットを敷いたり、ダンボールで作ったコーナーでそれぞれ落ち着いて遊べるように環境を作っています。 ・ リトミックや歌、音の出るもの（マラカス、太鼓など）、絵の具、粘土、折り紙など子どもの発達に応じて保育に取り入れています。 ・ 子どもの自由な発想を遊びの中に活かしています。自由遊びの際にも子どもに何をやりたいか聞いています。お泊まり保育の際には子どもたちがカレーを食べたいということで調理しました。 ・ 年長児の一斉活動ではいす取りゲームなどや体操のプログラムなどで友だちへの配慮、順番を守るなどのルールなどを伝えています。 ・ 園庭の花壇にネギ、オクラ、カブ、二十日大根などを栽培し、生育を観察しています。これらを調理に使用したり、スタンプに使用したりしています。 ・ 散歩は天気の良い日はできるかぎり出かけ、近くの公園で落ち葉やどんぐりを拾ったりして自然に積極的に触れています。 ・ 子ども同士のトラブルの際はそれぞれの気持ちを言葉で伝え解決できるよう援助しています。手が出てしまう年齢の場合は職員が中に入り相手の気持ちを代弁したり「ごめんね」を言えるように言葉かけをしています。 <コメント・提言> ・ 職員が工夫した缶やペットボトルを利用した手作りおもちゃをたくさん用意しています。ただ開園して間がないせいか絵本の量が少ないように見受けられます。今後増やしていくことが期待されます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- ・給食はあらかじめ子どもの喫食状況を把握して盛りつけの量を調節しています。苦手なものがあっても無理強いせず「一口だけでも食べてみようね」と声かけし完食できる喜びを味わえるようにしています。
- ・乳児の授乳は担当の職員が行ない安心感を与えています。離乳食の開始時には保護者と連携を取り、一人一人のペースに合わせて行なっています。
- ・3歳児からは当番活動を行い、子どもたちは楽しみにしており、食事に関して興味を持てるようにしています。
- ・3歳児からクッキング保育を行ない食に関心を持つよう工夫しています。2歳児でもレタスをちぎる、3歳児はピザを作る、4歳児はギョウザをつつむなど年齢に合わせて行なっています。訪問当日は、4歳児がハンバーグをこね、ホットプレートで焼き、自らひっくり返している姿が見受けられました。5歳児はお泊まり保育のカレー作りで包丁や火を使う料理にも挑戦しました。
- ・食材は旬のものをできるだけ使用し、また当月使用する産地の一覧表を玄関に掲示し、保護者の不安に応えています。
- ・月1回のランチメニューは特に盛りつけにこだわり、子どもの食欲増進や食への関心を高めています。
- ・月に1度給食会議を開き栄養士と担任で、子どもの喫食状況について確認し、メニューについても検討し、苦手なものや変更の必要があれば改善しています。
- ・年に1回給食の試食会を行い、その際に栄養士から栄養についてや味つけのことなどの話をしています。試食会でリクエストのあったレシピを玄関に複数おいてあり保護者がいつでも持って帰れるようになっています。訪問時には「納豆和え」「チャプチェ」など複数のレシピがおかれていました。
- ・乳幼児突然死症候群に対する対策として、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごとに呼吸をチェックし記録しうつぶせ寝禁止を徹底し保護者にもこの取り組みを伝え注意を促しています。
- ・トイレトレーニングは家庭と連携をとりながら進めています。家庭での状況を詳しく聞き、また園での進み具合を保護者に伝え無理のないように進めています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・保育園業務マニュアルに沿って、子ども一人一人の健康状態を把握しています。
- ・毎日の子どもの健康状態を聞き取り、クラスごとのファイルに記入し必要に応じて、入園前に聞き取りを行った既往症などとともに職員伝達ノートやケース会議などで職員に周知しています。
- ・食後の歯磨きは2歳児から行っており、2歳児は職員が仕上げ磨きをしています。またパネルシアター、ペープサートなどにより職員が歯を磨くことの大切さを伝えていきます。
- ・年2回の内科健診、年1回の歯科健診、毎月の身長・体重測定の結果を個別に記録しファイルしています。
- ・健診結果によっては嘱託医のアドバイスによってかかりつけ医や嘱託医への受診をすすめています。また感染症について疑問がある場合は職員の相談に乗ってもらうことで安心につなげています。
- ・設置法人が作成した「感染症・食中毒対応マニュアル」があり保護者には入園説明会で、感染症発生時の園の対応や登園停止基準を説明しています。
- ・保育中に発症した場合は子どもの既往症を考え、症状を見ながら、猶予がある場合には保護者の休憩時間を選んで連絡するなどの配慮をしています。早めの迎えが難しい場合には事務所などですごし、集団感染を防ぐよう配慮するとともに体調の悪い子どもがゆっくりと休める場を提供できるようにしています。
- ・感染症が園内で発生した場合には、玄関ロビーに病名と人数を掲示するとともに保護者や職員に速やかに伝達しています。
- ・感染症に関する最新情報は、感染症情報収集システムにより入手し、職員会議や回覧で職員と共有しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 理[衛生管理]



- ・設置法人が作成した保育園衛生マニュアルがあり、年度末に職員がそれぞれの立場で見直しを行い、それを基に設置法人が改訂したものを園で確認し周知しています。
- ・マニュアルの内容を全職員が共有するため、職員会議で職員ごとにマニュアルを検討しています。特に感染症のマニュアルについては園内で嘔吐の際の実際の処理のしかたを研修するなどして内容を共有しています。
- ・マニュアルに基づき、「保育室清掃記録表」を作成し職員で当番を決めて清掃を行っており、保育室内は清潔に保たれています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 理[安全管理]



- ・保育室内のラックやロッカーなど大型の家具には転倒防止策がとられ、ロッカーの上の備品には滑り止めシート、また家具や柱の角にはクッションをつけています。
- ・設置法人が作成した事故防止対応マニュアルがあり、職員に周知しています。
- ・緊急時の連絡体制を事務室に掲示し、保護者にも携帯電話の災害伝言板や災害伝言ダイヤルの利用方法を周知し、園の携帯電話には、全保護者の番号を登録し緊急時に備えています。
- ・毎月、月ごとにテーマを設け、火災・地震・津波を想定した避難訓練、消化訓練、通報訓練を行っています。
- ・職員は日本赤十字社の幼児安全法支援員養成講習を積極的に受講しており今年度2名が受講しました。今後もさらに受講を進めていく予定です
- ・小さなケガでも園長に報告し、クラス日誌に記録しています。職員の伝達ノートにも記載して、担任以外の職員も共有しています。保護者には連絡ノートや口頭で伝えています。
- ・アクシデントレポートを基に職員会議で話し合い、原因を究明し再発防止に努めています。危険な箇所の発見、職員の対応など日頃から危機管理の意識を高めています。
- ・セキュリティ会社と提携し、関係者以外は立ち入りができないよう、ICカードを職員と保護者に配付しています。来客は必ずインターホンで顔を確認しており、約束のない突然の見学依頼は受けず、後日改めて来てもらうように対応しています。
- ・不審者対策の合言葉を決め、職員に周知しています。不審者対策の訓練を毎年最低1回は行なっています。
- ・不審者の情報は大和市こども部からメールやファックスで配信され、保護者に知らせた方が良い場合には、玄関のボードに貼り出しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－３ 人権の尊重 	・ 保育園業務マニュアルをもとに、子どもの呼び方を含む言葉遣いや子どもの人権を尊重することなどを、職員会議で確認しています。 ・ 職員は、穏やかでゆったりとした言葉で子どもたちに話しかけ、子どもと話すときには、職員の目線も気をつけ、分かりやすく話ができるようにしています。また、注意する場合も多様な言葉かけがあり、場面に応じて使い分けができるように、職員間で話し合っています。職員が感情的になり、配慮に欠けた場合にはほかの職員がフォローしています。発達支援担当の専門家からも子どもへの声かけについてアドバイスを得ています。 ・ 保育室の中には死角にならない程度にパーテーションなどを利用して、子どもが一人になれる空間を作っています。 ・ 子どもと一対一で話し合うときには、廊下や相談室、事務所などでゆっくりと話を聞くことができます。 ・ 職員は入社時に守秘義務の意義や目的について説明を受け、誓約書を提出し、設置法人作成のマニュアルを年度初めに職員会議で確認しています。 ・ 保護者に対しては入園時に、重要事項説明書で、個人情報取り扱いや、保育所児童保育要録の小学校への提出について説明し、ホームページへの子どもの写真掲載については承諾書を提出してもらっています。 ・ 個人情報記載の文書や写真は園外への持ち出しを厳禁し、事務室の書庫に施錠保管しています。 ・ 遊びや行事の役割は子どもたちの話し合いで決め、持ち物なども性別による区別はしていません。 <工夫している点> ・ 職員に、守秘義務、個人情報保護、プライバシー保護などについてテスト形式で確認することにより周知を深めています。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携

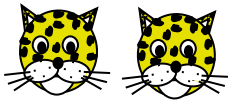


- ・年度初めの運営委員会で保護者に保育の基本方針を説明しています。また玄関ロビーにも基本方針を掲示しています。
- ・保護者に対しては園だよりなどで、行事のねらいや内容について説明をしています。行事のねらいは園だよりでも知らせていますが、理解されているかの把握にはいたっていません。
- ・「入園のご案内」、園だより、クラスだよりに運営方針、保育方針、園目標などを明記しています。
- ・職員同士の伝達ノート、クラスの様子を伝えるホワイトボードやノートを活用しながら、送迎時に園内での子どもの様子を可能な限り保護者に伝えています。
- ・0歳から2歳までは連絡ノートでその日の子どもの様子を細かく伝達し、3歳児以上でも要望があれば個人の連絡ノートで情報交換をしています。
- ・個人面談は年2回実施しています。その他希望があれば随時面談の機会を作っています。
- ・年2回クラス懇談会を実施しており、各クラスの様子を伝え、質疑応答、意見交換などを行なっています。
- ・プライバシーを守るため、状況や話の内容に応じて、第三者が立ち入らない相談室などで保護者の相談に応じています。
- ・相談内容は個別面談記録に記載して継続的に対応しており、周知すべき内容については職員会議で全職員と情報を共有しています。
- ・日常の保育の様子を写真に撮り、月ごとに販売しています。行事の際はDVDにおさめ、希望者には販売しています。

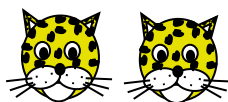
<コメント・提言>

- ・利用者家族アンケート結果では「保育方針について認知しているか」の設問で否定的な回答が約半数ほどありました。今後行事の際のアンケートなどで、「保育方針について理解されているか」の項目をプラスするなどして把握することが望まれます。また保護者の自主的な活動の折にはコミュニケーションを取り、意見交換など行うことが期待されます。
- ・「Ⅱ-4 保護者との交流・連携」で保護者組織がなく連携が取れないためC評価になりましたが、他項目の、保護者との日常的な連携などは積極的に行っています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・園庭開放、「やまと子育て応援フェスタ」で、地域住民と交流し、要望を把握しています。 ・園長が大和市園長会議に年4回出席しています。年1回開催される「やまと子育て応援フェスタ」の打ち合わせ会議にも4回出席し、情報交換を行っています。 ・地域の子育て支援ニーズについて、職員会議で話し合っています。また中期計画に盛り込んで、半期ごとの見直しの時期に話し合いをしています。一時保育を実施しており、40人程度登録し、常時利用者が5、6人います。週に1回午前中に園庭開放を行っています。月に1度、「子育て交流会」を企画しています。さらに地域住民にむけて、11月に「離乳食講座」を開催しました。 ・一時保育利用者、園見学者からの育児に関する相談を受けることはありますが、支援ニーズの把握には至っていません。 <コメント・提言> ・今後、地域住民との交流の中から、子育て支援ニーズ把握の機会が増えることが期待されます。

Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能



・大和市のホームページ、設置法人のホームページで保育内容などを紹介しています。大和市の「やまと子育て応援フェスタ」で、園の情報をパネル展示や遊びの提供をして、紹介しています。やまと子育て情報誌「こころんひろば」に園情報を載せています。

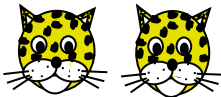
・地域の自治体、医療機関、学校などをリスト化し事務室に掲示して、情報を職員が共有しています。大和市はいく課、すくすく子育て課と日常的な連携ができています。

・月に一度育児相談の機会を設けていますが利用者はありません。

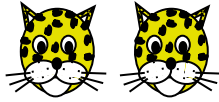
＜コメント・提言＞

・定期的な育児相談日を増やし、対応することが期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・週1回地域の子どものために園庭開放を行っています。 ・園での夏まつりや運動会に地域の方を招いています。 ・年1回開催する市主催の「やまと子育て応援フェスタ」に参加し、手遊びや手作りおもちゃの紹介などをしたり、折り紙の作品や子どもたちのちぎり絵を展示しています。 ・月1回4、5歳児は散歩コースのゴミ拾いを行っています。散歩時には出会う近隣の方と日常的に挨拶を交わしています。 ・近隣の大和スポーツセンターの育児広場などに遊びに行っています。消防署を訪問し、職員と交流したりはしご車をみせてもらったりしています。 ・近隣の福祉施設などへの交流はまだ行っていません。 ・玄関に大和市立図書館が主催する「お話し会」のポスターを掲示し参加できるよう配慮しています。 ＜コメント・提言＞ ・今後地域の福祉施設などとも積極的に交流をはかることが望まれます。
Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 	・保育園の情報はパンフレットやホームページで提供しています。ホームページは常に新しい情報を掲載しています。園のパンフレットを系列園や子育て支援センターなどにおいています。 ・社会福祉協議会が作成した冊子「やまと子育て情報 こころんひろば」に園の情報を載せています。 ・利用希望者への問い合わせについては随時、園長が対応しており見学もできることを伝えています。 ・見学は可能な限り利用希望者の都合に合わせていますが、子どもと同じ年齢の保育を見てもらえるように提案し、電話で日時を相談の上行なっています。また保護者の要望に合わせて夕方や土曜日の見学も状況に応じて受け入れています。

Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ



・ボランティア受け入れマニュアルがありますが受け入れの実績はありません。
・実習生受け入れマニュアルがあり受け入れの用意はありますが開園間もないため、まだ受け入れ実績はありません。
＜コメント・提言＞
・今後地域のボランティアを積極的に受け入れることが期待されます。また園の体制が整い次第、実習生の受け入れが期待されます。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅴ－１ 職員の人材育成 	・人材構成はクラス編成、勤務時間、経験年数、常勤職員と非常勤職員との組み合わせなどを園長が考慮しています。必要な場合は設置法人より逐次補充が行われています。 ・人材育成については、経験年数に応じた階層別研修を用意しています。年に2回実施の「自己査定」では「自己査定シート」に新人・中堅・主任・園長ごとに、経験、能力、習熟度に応じた努力目標が明示されています。 ・設置法人が年間研修計画を作成し、職員は「個人別年間研修計画」を立てています。研修受講後はレポートを提出し、職員会議で報告・説明をしています。 ・業務については、経験年数、勤務時間などを考慮しながら、組み合わせを配慮しています。クラスの担任となっている非常勤職員もいます。内外の研修には非常勤職員も参加できる体制になっています。嘔吐処理、AED使用法などの園内研修に参加しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
V－2 職員の技術の向上 	・職員は年に2回の自己査定を行っています。 ・年間指導計画、月案、週案に、それぞれ評価反省の記入欄があり、定型化された書式となっています。子どもの育ちや意欲、活動への取り組みを重視して、振り返りを行うようにしています。研修で、帳票類の書き方を学ぶほか、場合により園長が視点などを助言・指導しています。 ・クラス担当職員間で、評価反省を行い、翌週・翌月の計画を立てています。職員会議では月案、年間計画についての話し合いを行っています。職員会議、第三者評価の取り組みの話し合いから、園としての課題を明らかにするように努めています。
V－3 職員のモチベーションの維持 	・年2回実施の「自己査定」に階層ごとの役割が期待水準として明文化されています。 ・職員会議、クラス会議などで改善提案を募るほか、日常的な会話からも意見を募っています。常日頃から話がしやすいようにしています。場合により個別に話をしています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	・「保育園業務マニュアル」「就業規則」に職員の守るべき倫理、服務規程を明文化して全職員に周知しています。また設置法人が配付している、倫理、規範が書かれた「CREDO」カードを全員所持しており、読み合わせをして周知しています。 ・設置法人のホームページ上に決算書、運営状況について公開されています。 ・設置法人園長会、大和市園長会で得た、他施設での不適切事例などを職員会議で取り上げ、話し合いをしています。 ・ゴミ減量化、リサイクル分別を行っています。段ボールで、パーテーションを作ったり、牛乳パックやトレイを利用して、手作りおもちゃや製作に利用しています。ソーラーパネルを設置しています。「節電」についての掲示をし、熱心に取り組んでいます。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・理念、基本方針、園目標は玄関ホールに掲示しています。設置法人が作成した「CREDO」カードを職員が所持しています。年度初めに理念、基本方針の書かれた「重要事項説明書」を配付しています。 ・園長は年度初めの職員会議で理念や基本方針に基づいた保育についての話をしています。日常保育の中で、確認をするようにしています。また設置法人が作成・配付した「CREDO」カードを、折あるごとに読み直すよう、職員に伝えています。 ・保育内容、行事の変更などは、職員会議で職員に説明しています。保護者には、クラス懇談会や園だより、園内への掲示で、知らせています。園の駐車場についてなど、運営委員会で保護者と意見交換する機会があります。 ・園長が主任を兼務しています。各クラスを見回り、個々の職員の業務状況を把握し、シフト編成、職員配置を行っています。クラスの保育に入り、個々の職員の様子を見ながら、指導・助言を行っています。園長が不在の場合も、各職員の特性を活かし、お互いに補い合いながら、仕事に取り組んでいます。
VI-3 効率的な運営 	・事業運営に影響のある情報を設置法人で収集、分析をしています。園長は設置法人の園長会議、大和市の行政機関から情報を収集しています。 ・重要な情報は設置法人の園長会議で話し合われ、園長が持ち帰り、職員会議で報告しています。園の改善課題については、職員会議で、話し合いをしています。 ・平成26～31年度の中長期計画があります。 ・運営、サービスプロセスの新たなしくみは設置法人で検討しています。 ・次代の施設運営に備え、設置法人本部が後継者育成の計画を作っています。 ・設置法人は運営について、関連機関、大学、行政など専門機関から意見を取り入れています。

利用者家族アンケート

事業所名:アスク大和東保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数51名、全保護者42家族を対象とし、回答は29家族からあり、回収率は69%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で 保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は93%(満足52%、どちらかといえば満足41%)と高い評価を得ており、否定的な回答は7%(どちらかといえば不満 7%、不満0 %)でした。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1)「園の基本理念や基本方針の認知について」の回答(よく知っている、まあ知っているの合計)は52%でしたが、この全員が内容について賛同できると回答しています。
- 2)日常の保育内容 生活についての設問で、「給食の献立内容について」、「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」、「お子さんの体調への気配りについて」の回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)はそれぞれ100%、と高い評価でした。
- 3)保育園の快適さや安全対策についての設問で「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気について」は(「満足、どちらかといえば満足」の合計)は100%、「施設設備について」、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」はそれぞれ同97%でした。
- 4)職員の対応についての設問で「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)は97%、「あなたのお子さんが大切にされているかについて」は同96%でした。
- 5)日常の保育内容 遊びについての設問で、「クラス活動や遊びについて」(「満足、どちらかといえば満足」の合計)は94%、「園のおもちゃや教材について」の回答は同93%でした。

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1)園と保護者との連携・交流についての設問で、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について」は(「どちらかといえば不満・不満」の合計)は28%、「お子さんに関する重要な情報の連絡体制について」の回答は、同21%ありました。
- 2)日常の保育内容 遊びについての設問で「子どもが戸外遊びを十分しているかについて」の回答(「どちらかといえば不満・不満」の合計)は24%ありました。
- 3)保育園に関する年間の計画についての設問で「年間の保育や行事についての説明には」の回答(「どちらかといえば不満・不満」の合計)は17%ありました。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	7%	45%	17%	28%	3%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	80%	20%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	38%	38%	7%	0%	17%	0%
	その他: まだ開園していなかったのでできなかった。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	34%	41%	17%	4%	4%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	35%	48%	10%	0%	7%	0%
	その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	41%	48%	7%	0%	0%	4%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	41%	41%	10%	4%	4%	0%
	その他:					
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	48%	42%	3%	7%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	55%	28%	10%	7%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	31%	38%	3%	10%	18%	0%
	その他: まだ開園して1年なので要望を聞く体制が分からない。要望を出していないのでわからない。					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	62%	32%	3%	3%	0%	0%
その他:						
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	55%	17%	14%	10%	4%	0%
その他:						
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	76%	17%	7%	0%	0%	0%
その他:						
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	42%	45%	3%	3%	7%	0%
その他:						
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	66%	21%	10%	3%	0%	0%
その他:						
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	66%	24%	7%	0%	3%	0%
その他:						

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	93%	7%	0%	0%	0%	0%
その他:						
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	76%	24%	0%	0%	0%	0%
その他:						
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	73%	21%	0%	3%	3%	0%
その他:						
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	59%	35%	3%	0%	3%	0%
その他:						
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	52%	41%	3%	0%	4%	0%
その他:						
お子さんの体調への気配りについては	62%	38%	0%	0%	0%	0%
その他:						
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	48%	35%	7%	3%	4%	3%
その他:						

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	69%	28%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	72%	28%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	69%	28%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	72%	14%	14%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	41%	38%	10%	3%	8%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	66%	21%	10%	3%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	66%	21%	10%	3%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	55%	14%	14%	14%	3%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	55%	24%	14%	7%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	41%	35%	10%	7%	7%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	76%	17%	3%	0%	4%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	55%	41%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	62%	35%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	55%	21%	0%	0%	21%	3%
	その他:アレルギーがないのでわからない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	52%	31%	10%	3%	4%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	38%	48%	3%	3%	8%	0%
	その他:意見を出したことがないのでわからない。					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	52%	41%	7%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 27 年 11 月 18 日・26 日

事業所名：アスク大和東保育園

【0 歳児・1 歳児・一時保育合同】

＜オムツ替え＞

子どもが遊んでいる途中で、「○ちゃん、オムツ替え行ってみよう」と職員に声かけされると、トイレ近くに置いてある、オムツ入れの箱から自分でオムツを取り出し、職員と一緒にトイレに行きます。トイレの中に、低い長椅子やマットがあり、腰かけたり、座ったりして、自分でズボンを下ろしたり脱いだりして、便器に向かっています。「上手にできたね」「さっぱりしたね」「ズボンも自分であげられるかな」と言われると、一生懸命自分で引っ張り上げています。

昼寝前、順番にオムツ替えをするときには、職員 2 名が対応しています。トイレ前に敷物を敷いて、着替えやオムツを用意し、着脱の声かけや見守りをしています。

＜給食前の様子＞

ほかの職員が昼食の準備を整えている間、テーブルを囲んでいる子どもは、職員が絵本を読んでいるのを聞いています。読み終わった後、「いないいないばあ、がいい」と言った子に、「また、お昼食べてから、いないいないばあ の絵本を読んでもらいましょう」「A 先生、いい？ って聞いてみよう」と職員が声かけしています。子どもは、残念そうでしたが、こっくりしています。職員が「エプロン配ります、△ちゃん、◇ちゃん」と一人一人の名前を呼んでから渡します。「どうぞ」、「自分でとめられるかな」、「やってみて」、「○ちゃん、がんばってる～」とそれぞれに声かけしています。食事を盛り付けた食器をトレイごと、職員が順番に一人一人の前に置いていきます。名前をよんでから、「どうぞ」と声かけをしています。一時保育の子どもにも、「～ちゃん」と声かけしています。それぞれスプーンやフォークを使い、食事をしています。「おいしいね」「こうやって手を添えると、食べやすいよ」「上手、上手」、「これ、人参だね。よくカミカミしてね」、「お野菜いっぱい食べようね」など、職員に話しかけられながら、モリモリ食べています。

＜午睡＞

部屋を薄暗くし、それぞれの布団に横になります。自分で布団に行き、すぐ横になる子や、遊び足りないように、周りを歩いている子、頭だけ枕につけて、足をバタバタする子、泣き出してしまった子など、さまざまです。泣

き出してしまった子は職員にだっこしてもらい、しばらくして落ち着いてから、布団に横になります。職員が頭やおでこをなでています。静かな音で、ゆったりとした音楽が流れています。いつまでも寝付けない子は、しばらくラックに座って、皆が寝入るのをながめていました。

<自由遊び>

子どもたちはマットを敷いた上でブロック遊びをしています。ブロックで車や電車の形にしたり、建物や塔のように積んでいる子もいます。電車を走らせて遊んでいる子が、塔をくぐって遊びたそうにしています。「ここ通っていい？」と職員が、聞くと「いいよ」と貸してくれました。「よかったね、ありがとう」と職員が言うと、電車を持った子が嬉しそうに、塔をくぐらせていきます。

着ている洋服の首の後ろに、人形を入れてもらい、おんぶして遊んでいる子どもたちもいます。「やさしくトントンして寝かせてあげようね」と職員に言われ、そっと手を人形にあてています。一人で座って絵本を見ている子もいます。時々ほかの友達が遊んでいるのを見て、にこにこしていますが、絵本の方に興味があるようです。

<運動遊び>

保育室の中央に、マットを丸めて、トンネルのように見立てたものや、低く長い台を一本橋のように並べてあります。子どもがマットの向こう側を覗き込んだりしています。「くぐってみる？」、「入ってみる？」と聞いていますが、くぐり抜ける子がいません。職員が、「見てて～。向こうまで行ってみるよ」と、腹這いになって、くぐり抜けると、マネをして何人もくぐり始めます。「順番、順番」と、列ができています。一本橋の方も、何人も並んでいます。「みんなで、進むよ」「落っこちないでね」「うまくわたれるかなあ」「あわてなくていいよ」「お友だちをおさないように」と職員から声かけされながら、最初は、バランスを取りながら、ゆっくりと、だんだん慣れてくると、早く渡れるようになっていきます。

マットと低い台を片づけ、今度は音楽をかけて、リズム運動が始まりました。職員と一緒に、自由に体を揺らしたり、手を回したりと皆、元気に動いています。音楽の、スピードが変わったり、音が変わるタイミングでは、ハイハイしたり、走ったり、静止したりと、十分に体を使っています。

【2歳児】

<散歩>

職員同士で、「昨日の雨で、地面がすべりやすいかもしれない」「走りたいけど、今日長靴の子が〇人いるから」と打ち合わせの結果、急きょ散歩の行

先が変更になりました。近くの大和スポーツセンターに行くことになりました。体調により、散歩に行かない子が玄関で、皆を見送ります。「○ちゃん、今日は、お散歩やめておくから、ここでみんなとバイバイするね」と職員が言うと、「○ちゃん一人なの？」と心配そうに聞く子に「B 先生が残って一緒に遊んでいるから大丈夫なのよ」と説明すると、安心したようです。

目的地まで信号のない交差点や、交通量の多い道を通るので、職員は慎重に、ゆっくりしたペースを保っています。途中で子どもが落ちている花びらを見て「ハートだ、ハートだ」と言っています。「花びらハートに見えるね。ピンクできれいだね。つばきっていう名前よ」と職員が話しかけています。途中、近隣のお店の人や住民が「いってらっしゃい」「こんにちは」と声をかけてくれます。職員や子どもも、「こんにちは」と元気に答えています。

大和スポーツセンターの周辺を歩き、大きなマテバシイの木が何本もあるところに来ました。階段を上って、広い通路のところから、木の高い枝に、どんぐりがついているのを観察します。「どんぐりあったかな」「ついてるね。どんぐり帽子もたくさんあるね」「先生、おっきいどんぐりがついてるよ」「ここにも、あるよ」「みんな、よくみつけたね」と職員が声かけすると皆ほころしげです。階段を下りて、植込みの中に入って、遊ぶことになりました。遊ぶ前に職員が「おともだちのをとらない・笛が鳴ったら、先生の所に集まる」と注意事項を子どもに話しています。どんぐりを見つけて「見つけた、見つけた」「ラッキーだね」「先生、こんなについてるの見つけたよ」「すごいね、数かぞえてみようか、いち、にい、さん・・・」と職員と一緒に数えています。みみずが出てきて、びっくりしている子もいます。「みみずさんは、土を元気にしてくれるんだよ」と職員から聞いて不思議そうにしています。皆が集まってきて、動いているのを見えています。「ダンゴ虫もいるよ」「ダンゴ虫なら、さわれるよ」と喜んでいる子もいます。 帰り道、職員が「今日お散歩のとき、見たのは、なんだった？」と話しかけます。「どんぐり」「ダンゴ虫」「ソフトクリーム（の看板）」「はっぱ」など次々と声があがります。「ほかにもなんかあったかな」「みみず～」「そうだったね、みみずも見たね。雨が上がったから、出てきたんだね」など話しながら、戻ります。

＜食事＞

味噌汁に「ナス入ってません」と言っている子に「えー、ナス入っているはずよ。この黒っぽいのがナスなのよ」「ナスって、こんなに黒いものなのか」と不思議そうです。「煮たから黒っぽい色になっちゃったの」と説明すると「ふうん、そうなの」とナスを口に入れていきます。「おかわりする？」と聞かれた子は「おかわりする。全部する。お野菜も」と言っています。「おかわりするときはどういうんだっけ？」と聞くと「○○先生、おかわりください」と言っていま

す。「納豆ネバネバで、栄養満点」と職員が話しかけると、「納豆おかわりします。ごはんもいります」と次々に手があがります。友達同士「おいしいね」「おかわりする？」と言いながら、食事をしています。「□君、早く食べたけどおかわりしない？」聞かれた子は首を振っています。おなか一杯になったようです。職員が時々、姿勢が崩れてきた子や、話に夢中の場合は食べるように促しています。

<排泄>

ほとんどの子どもが、自分でズボンやパンツの着脱をしたり、下ろしたりして、排泄の始末もしています。「上手にできたね」「ズボン、後ろの方ももちあげてね」「ズボンはいてから手も洗ってね」と職員が声かけしています。トイレ入り口に低い長椅子があり、そこに腰かけてからズボンを着脱する子もいます。

<運動遊び>

職員と一緒にパラバルーン（大きな円形の布地遊具）の円周の端を持って、音楽をかけ、職員の鈴や、カスタネットに合わせて、歩きながら、向きを変えたり、パラバルーンを高く上げたり、揺らせたりしています。幼児クラスでパラバルーンを使っていたのを、2歳児クラスでもとりいれたそうです。どの子も、にこにこしながら、向きを変えたりしています。パラバルーンを揺らせるときは、特に楽しそうです。

【3歳児】

<食事>

食物アレルギーがある子どもに配膳するため職員は2人でよみあげチェックしています。

ご飯の前にトイレ行きましょうと声をかけています。給食のお当番が給食の歌をうたい、子どもたちはスプーンを使って食べていますが「お箸も使えるよ、おうちで使うんだよ」と言っています。職員は12のところまで来たらおかわり終わりだよ～と伝えていました。食べ終わると子どもたちはめいめいに食器を片付けますが、一人の子どもが落としてしまい割れてしまいました。職員は子どもたちに「そっちに行かないよ！」と言い、素早く片付けています。後で落とした子どもには、「なんでわれちゃったのかな」と聞いていました。

<排泄>

給食前に、一斉にトイレに行きます。トイレから帰って来ると、職員が「シャツチェックしまーす。シャツしまえてるかな～」と一人ずつ見て、できない子は列の後ろに戻りできるまで直しています。ズボンを履くのも、自分のできるよう職員は根気よく見守っています。

<自由遊び>

子どもたちはクリスマスのリースを作っています。子どもたちが指でダンボールで作った土台にのりを塗っています。塗り終わるとそれぞれ手を洗います。「待っている人は手をグーにして」と職員がいうと、子どもたちはそのとおりにして順番を待っています、そのあとはリースに緑と赤の紙を貼って行き、「先生できたー」という声に、職員が「もう少し糊の所に貼れるよ」と声をかけています。

<午後の自由遊び>

子どもたちは壁のところに一列に並び、「プラレール、おはし、おえかき」どれにしますか？」と職員が聞くと子どもたちがそれぞれの遊びに分かれて行きます。職員から「プラレールは投げない、走らない、けんかしないというお約束を守って遊んで下さい」と言われ遊び始めます。スポンジを小さく切ったものを箸でお椀に入れる遊びをしています。職員は遊んでいる子どものそばについて箸の持ち方を教えています。

【4・5歳児】

<午前、一斉活動>

子どもたちは牛乳パックで作ったフリスビーの飛ばしっこをしています。保育室の端から端まで紐を渡し、真ん中には輪をつるしてあります。最初は職員が上手に飛ばして見せています。3列に並び順番に投げるというルールで、子どもたちは順番を守って一生懸命投げています。みんな前のめりになって、どんどん紐に近づいて行ってしまうので、その都度声をかけてうしろに戻ります。慣れて来ると輪をめがけて投げようとしてみようと声かけし、子どもたちもコツをつかんで行っています。職員は「すごいね〜」「飛んだね〜」と声をかけています。

<クッキング保育>

鶏肉ハンバーグを子どもたちがこねています。最初は肉のネバネバ感にとまどっていましたが、だんだんと慣れてきて上手にこねています。それぞれちょうど良い大きさに丸めた後、一旦手を洗います。職員が「いつもと洗いが違うから良く聞いてね、まずボウルの中でお肉を落としてから洗います」というと一人の子が、「いい方法考えたね」と言い職員は笑いながら「ありがとうございます」と答えていました。みんなが手を洗い終わるとホットプレートで焼いていきます。職員は「色も良く見てね〜、何色になると思う？」と聞くと「オレンジ〜、違うよこげ茶だよ」と子どもが答えます。一人ずつフライ返しでひっくり返す前に、お約束「熱いからぜったいさわらない」と言って子どもと確認します。先生が補助しながらひっくり返して行きます。「早く食べたい〜、煙出てきたよ〜、いいにおい〜」と子どもたちは大喜びです。

「ぼくやらない」という子には職員が「怖くないよ」と声をかけ、無理にではなく促していました。そのあと各自お弁当箱を持ってきて他の給食のおかずといっしょにつめてお弁当ランチとして別の保育室に移動です。大きなビニールシートに皆集まって丸くなり、食事をします。「ピクニック気分だね」
「皆で、一緒に楽しいね」と職員が声かけしています。お当番が、おつゆとお茶の入った食器を、配っています。「こぼさないようにね」「シートだから、そっと置いてね」と職員が声かけすると、ゆっくり歩き、しっかり食器をみながら友だちの前に置いていきます。「お弁当おいしいね」「みんなが作ったから、ほんとにおいしいね」「うまくできた」と話しながら、食事をしています。

<排泄>

トイレへ行きましょうと職員が声かけするよりも前に自主的にトイレへ行っています。子どもたちは自然な流れでトイレに行き、「走らないでね」と職員が声かけしています。

平成 27 年度 第三者評価 アスク大和東保育園事業者コメント

【受審の動機】

平成 26 年 10 月開園から 1 年を経過した時点での園の問題点や保育運営の傾向、長所や短所を見直すため第三者評価を受審しました。

系列園で同じ評価機関に評価を依頼することで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけたと考えています。

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。評価の際は、日頃の保育に加え、これからの課題など客観的に指導していただきました。

【受審した結果】

今回の評価をもとに、今までの保育を見直す良い機会となりました。

今後の保育にも参考にさせていただき、より良いものとしていきたいと思えます。保護者の方々のアンケート結果でも保育園に対してのご理解、今後期待されることを知ることが出来ました。

今年度は特に優れている点として、体を動かす遊びの工夫や職員の手作りおもちゃの工夫を評価されたことが大きな成果でした。

今後は、ご指摘頂いた【子育て支援へのさらなる努力】を念頭におき、地域に根づいた良い園を目指して、現在の園の課題を抽出し、中長期的な展望のもとに園運営の方向性を示し、その実現に向けて努力していきます。

最後に今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、そしてご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。